

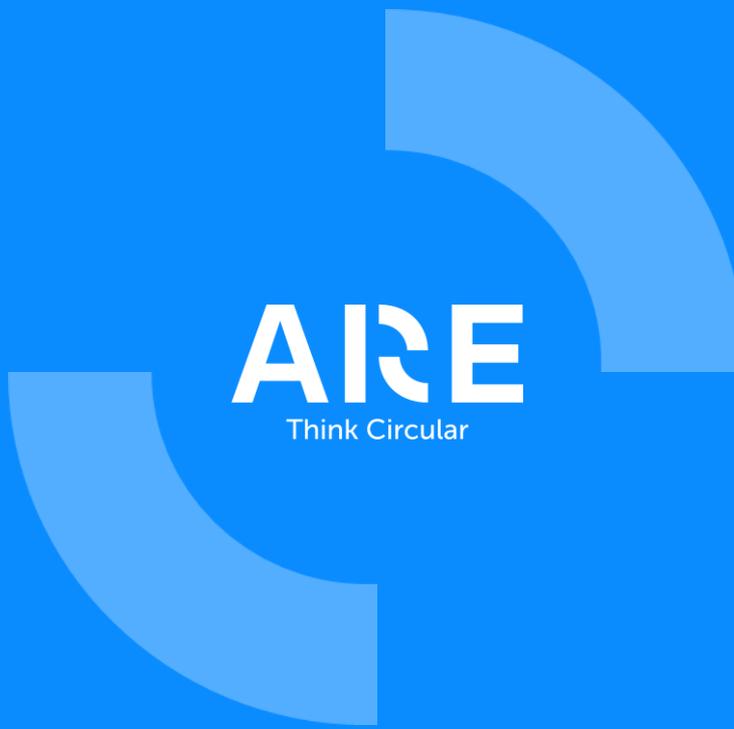
2026年3月期 第1四半期

---

# 決算説明資料

AREホールディングス株式会社  
2025年7月30日

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



ARE  
Think Circular



目次

1. 2026年3月期 第1四半期決算
2. 参考資料

1

## 連結業績

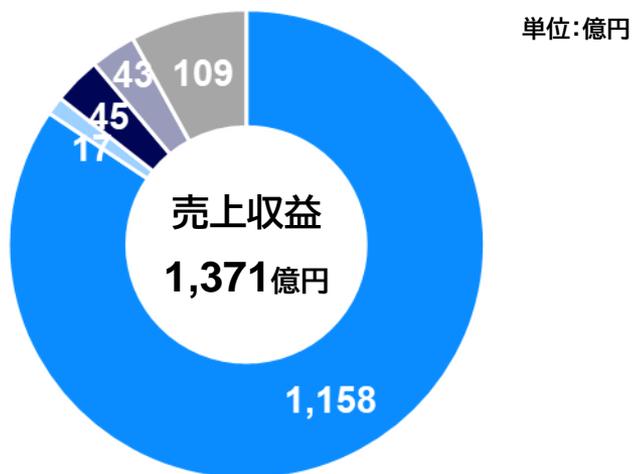
	2025/3期 1Q実績	2026/3期		2026/3期 通期計画
		1Q実績	前年同期比	
売上収益	923 億円	1,371 億円	+448 億円	4,482 億円
営業利益	36 億円	59 億円	+23 億円	220 億円
当期利益	32 億円	36 億円	+4 億円	162 億円

2

## セグメント別業績

	貴金属事業		環境保全事業	
	2026/3期 1Q実績	前年同期比	2026/3期 1Q実績	前年同期比
営業利益	56 億円	+24 億円	4 億円	△1 億円

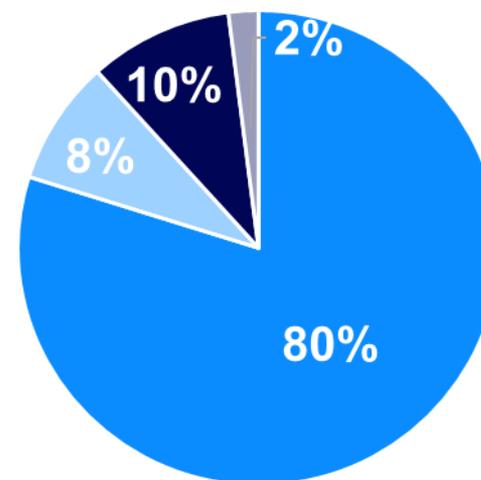
## 貴金属別売上構成比



■ Au ■ Ag ■ Pd ■ Pt ■ その他

※ 「その他」にはRhの販売額および北米精錬事業の売上収益を含む

## 回収分野別売上構成比



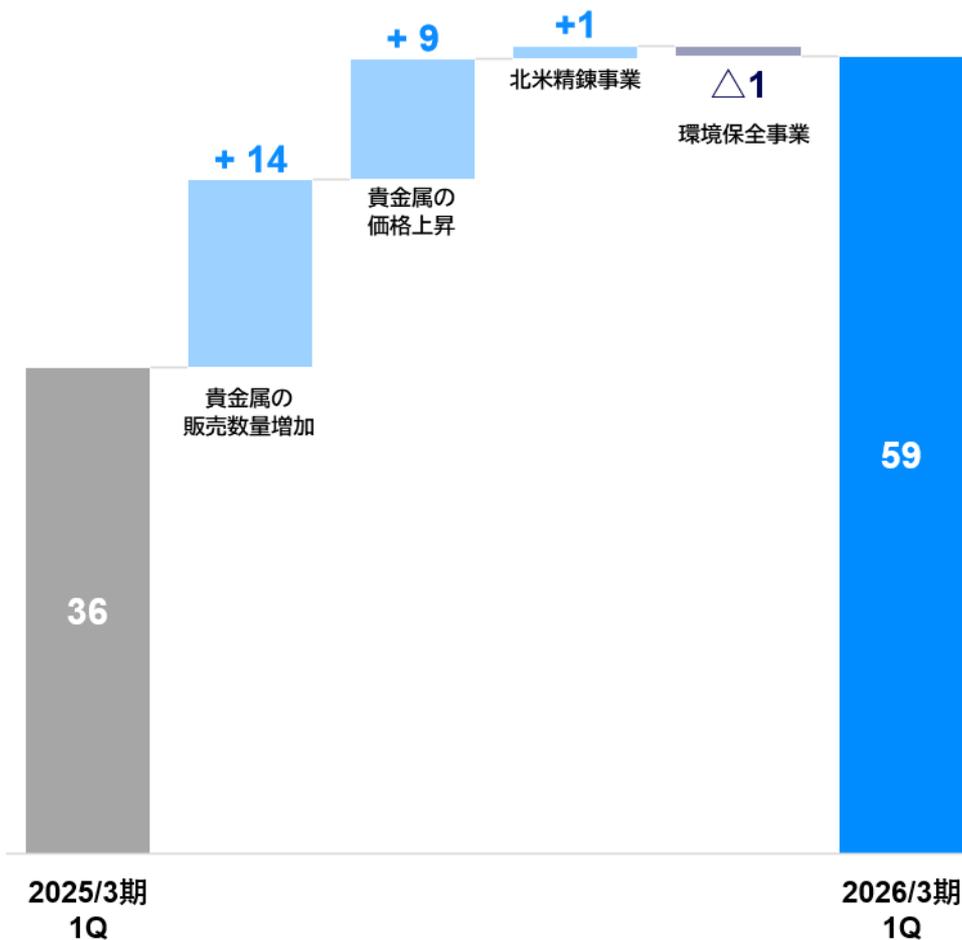
■ 宝飾 ■ デンタル ■ 電子 ■ 触媒

※ 国内の貴金属リサイクル事業における回収分野別の売上構成比  
 ※ 北米精錬事業および国内のリテール事業等による売上収益は含まない



## 営業利益の増減分析(前年同期比)

単位:億円



## 主な増減要因

### 貴金属リサイクル事業 | 増益

貴金属の販売量増加および価格上昇により増益。

### 北米精錬事業 | 増益

前期に引き続き精錬・倉庫・トレーディング事業が堅調に推移したことで増益。

### 貴金属価格の変動

単位:円

貴金属価格 (1gあたり)	2025/3期 1Q	2026/3期 1Q	
	期中 平均価格	期中 平均価格	増減
Au	11,744	15,307	+ 3,563
Pd	4,994	4,652	△ 342
Pt	5,001	5,078	+ 77
Rh	22,969	24,405	+ 1,436

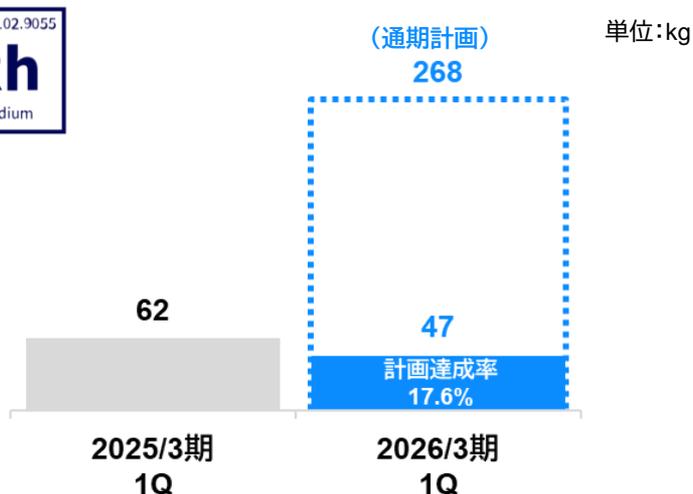
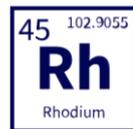
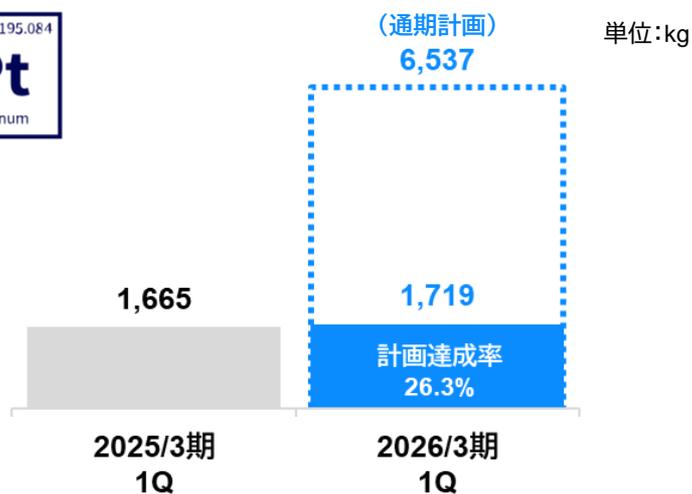
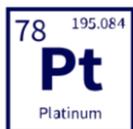
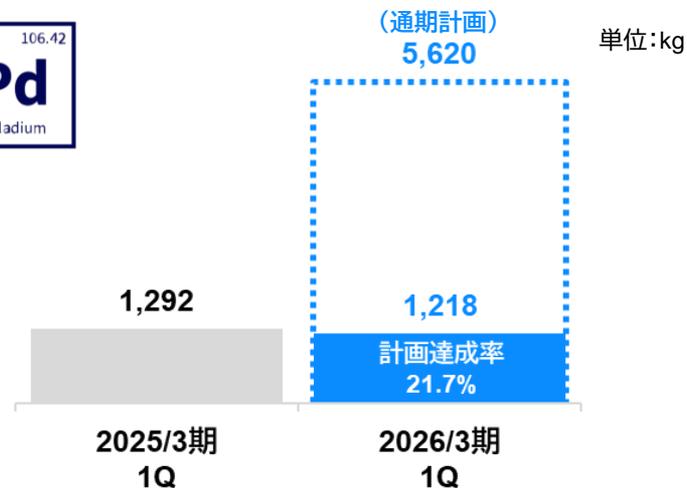
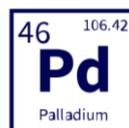
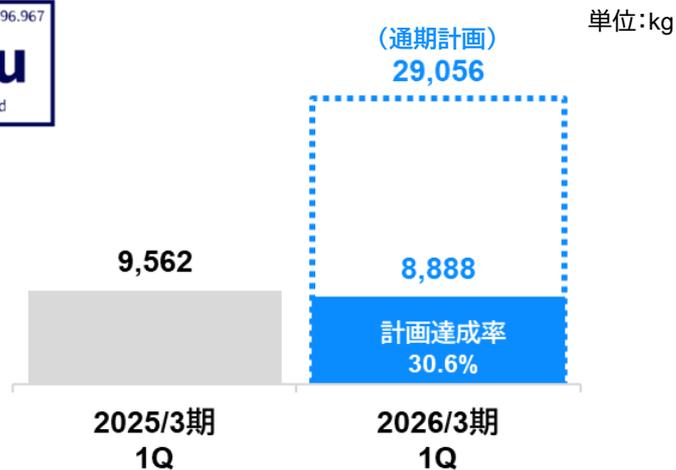
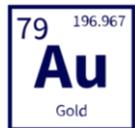
【参照元】

Au...山元建値、Pd...日経安値、Pt...小売価格(税抜)、Rh... Metals Week NY Dealer Prices



	利益 (前年同期比)	回収量 (前年同期比)	概況
デンタル	増益 ▲	Au 101%	素材転換の進行によりリサイクル市場の縮小は継続するも、営業効率の改善と新たな施策の実行により前年同水準の回収量を維持した結果、増益。
宝飾	増益 ▲	Au 90%	採算性をより重視した結果、Auの回収量が減少するも増益。
電子	増益 ▲	Au 104%	中国市場の低迷、米国の関税政策、EV需要の失速が影響する一方で、AI半導体関連は好調に推移。その結果、前年同期比で回収量、利益ともに増加。
触媒	減益 ▼	Pd 75%	円安の影響で海外における中古車需要が高まり、競争環境が激化。その結果、国内での廃自動車触媒の発生量が減少し、回収量、利益ともに減少。

※ 概況欄のコメントは前年同期と比較した内容。



**Au**



※参照:山元建値

**Pd**



※参照:日経安値

**Pt**



※参照:小売価格(税抜)

**Rh**



※参照:Metals Week NY Dealer Prices

- 2025年4月に坂東工場第2期が竣工し、自動車触媒および化学触媒の処理を開始
- 電子分野における処理工場は、2025年10月頃の稼働を予定
- 生産能力の強化・効率化に加え、省人化や環境負荷の低減も推進

## 1 生産能力の強化および効率化



※全て移管前の工場と比較した際の数値



自動車触媒専用の処理装置



自動サンプリング装置

- 自動車触媒専用の処理設備を導入、サンプリングまで自動化し生産能力の強化および、効率化を実現
- 移管前の工場と比較して人員を削減しつつ生産能力を向上し、一人当たり生産量1.7倍を目指す

## 2 環境負荷の低減



※移管前の工場と比較した際の数値



産業廃棄物焼却由来の余剰電力で製造した水素を使用



- 化石燃料から天然ガスへの切り替えに加え、使用燃料の一部を水素に置き換えることでCO<sub>2</sub>を削減
- 廃棄物処理の委託先が、廃棄物処理に伴う発電を活用して製造した水素を使用することで、資源循環の実現にも貢献

営業所

19

国内各地を網羅する  
回収ネットワーク



工場

4

蓄積・集約された  
技術とノウハウ

拠点

- 営業所
- 工場

処理分野

- デンタル
- 宝飾
- 電子
- 触媒

## 北海道・東北エリア

- 札幌営業所
- 青森営業所
- 仙台営業所
- 新潟営業所

## 中部・北陸エリア

- 甲府営業所
- 長野営業所
- 長野工場
- 静岡営業所
- 名古屋営業所
- 北陸営業所

## 関東エリア

- 関東営業所
- 横浜営業所
- 北関東営業所
- 坂東工場

坂東工場(第1期)



坂東工場(第2期)



## 九州・沖縄エリア

- 福岡営業所
- 福岡工場
- 鹿児島営業所
- 沖縄営業所

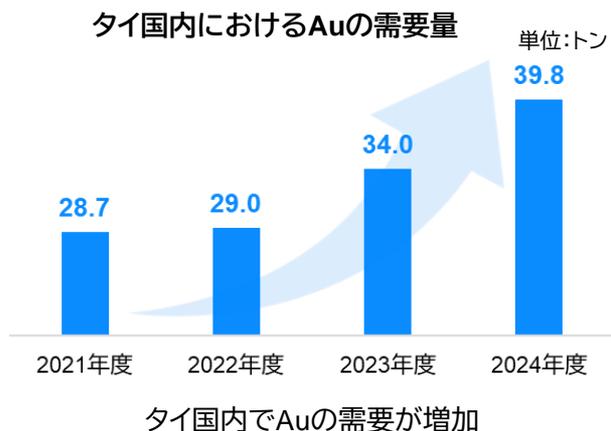
## 中国エリア

- 岡山営業所
- 広島営業所

## 近畿エリア

- 阪神営業所
- 尼崎工場
- 神戸営業所

## 1 Au需要が拡大



※ World Gold Councilのデータを基に当社作成



- 現地の顧客から買い取った宝飾品スクラップを日本に輸送し、坂東工場を高純度に精錬して販売
- 複数社と取引が開始しており、2026年4月の現地工場の稼働開始を皮切りに、大口取引の獲得を目指す

## 2 白金族の精錬



宝飾品スクラップに含まれる白金族(Pt・Pd等)を効率的に精製できる現地企業が無く、欧州の精錬業者に委託されている



分析・精錬の高い技術力と蓄積したノウハウに加え、地理的な優位性を活かして顧客の獲得を図る

## 1 デリー近郊に現地法人を設立

### 会社概要



会社名	Asahi Pretec India Private Limited
所在地	Gurgaon, Haryana, India
資本金	30百万円
出資者	アサヒプリテック株式会社 アサヒメタルファイン株式会社

2025年6月にインドの首都であるデリー近郊に現地法人を設立  
営業活動の本格化に向けた人員の整備等、事業基盤の構築が進行

## 2 ビジネス領域の拡大に向けた調査を開始



今後発生量が増加する見込みである廃自動車触媒をはじめ、  
宝飾品やEスクラップ等の貴金属含有スクラップの市場調査を開始

### 廃自動車触媒の市場

成長余地の大きな自動車市場

インド政府による「廃車政策」



経済成長



自動車保有率  
の拡大



検査基準に満たない車両は  
走行不可もしくは廃車が義務化

廃車台数の増加に伴い触媒の回収が期待できる

### その他の貴金属含有スクラップの市場



宝飾品



Eスクラップ



工場排出物

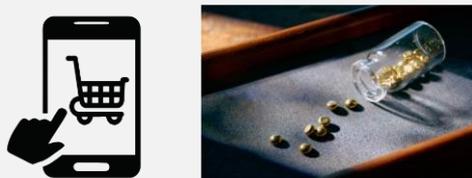
宝飾品やEスクラップ以外にも工場で発生する  
リサイクル可能な廃棄物等を調査中

## サービス紹介サイト「ASAHI Grellia Gate」を7/1に新規リリース

### 1 買う

#### ASAHIの豆金

初めて金を購入する方でも1粒(1g)から手軽に購入できる珍しい形状の豆金をラインナップに追加し、バリエーション豊かな貴金属製品を提供。



7/1～  
販売中

当社がリサイクル由来の原料から精錬し、環境負荷を抑えて生産した「グリーンゴールド」を、ASAHI Online Storeで独自販売。

#### ASAHI GRELLIA GATE



アサヒグレリアゲート 🔍

### 3 学ぶ



これから貴金属投資を始めたい方や興味がある方に向けて、貴金属投資の基礎から学べる初心者ガイドやコラム記事、動画などのコンテンツを配信。

### 2 預ける



保管料 **0** 円

オンライン上で金地金を資産として保有するサービスをASAHI Gold Clubで展開。

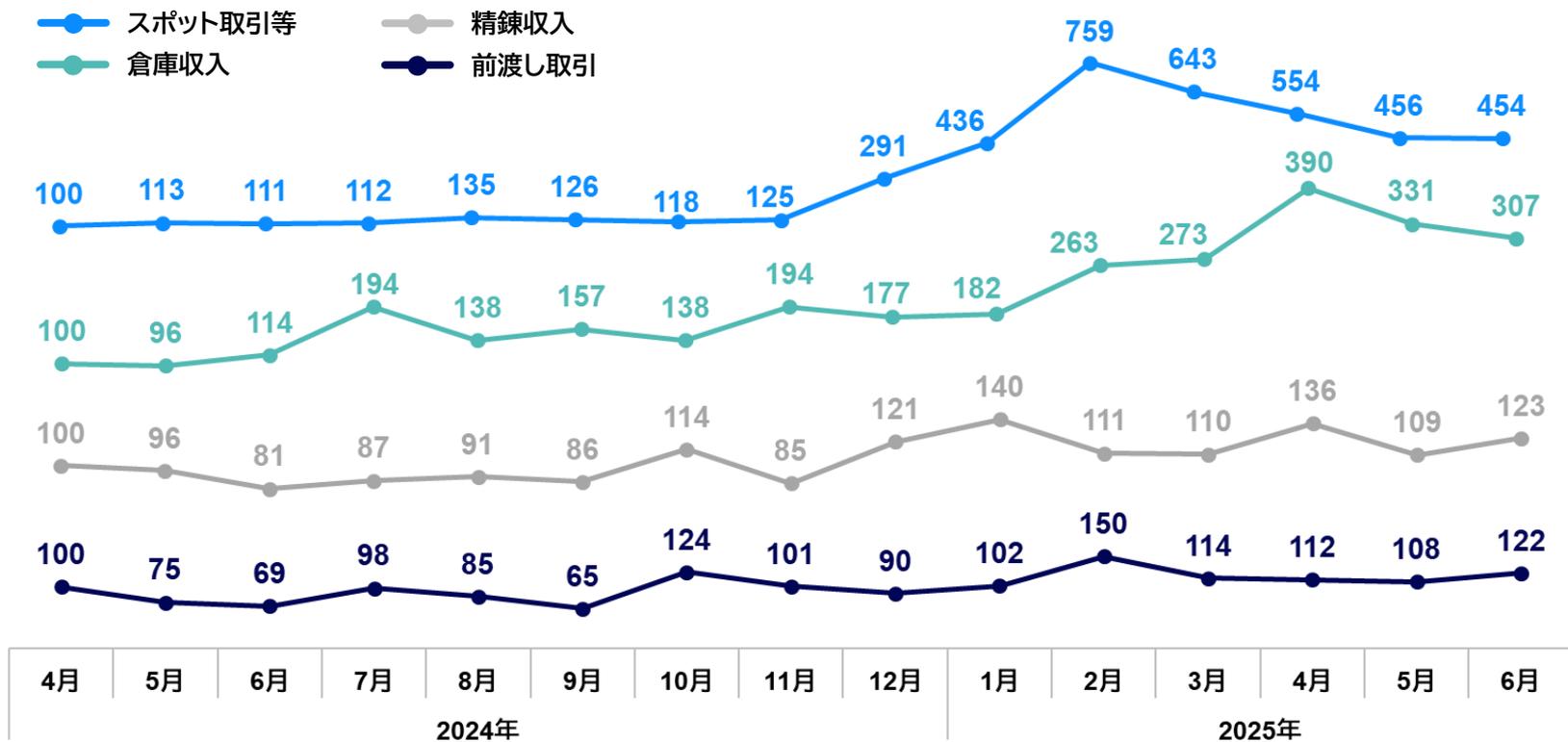
7/1より新たに一般顧客向けに展開を開始

### 4 知る



ASAHIブランドやグリーンゴールドの特長についてなど、貴金属リサイクル製品を取り扱う当社のブランドストーリーを紹介。

- 精錬、製品、トレーディング、倉庫事業はすべて好調に推移
- 米国の関税制度をめぐる不透明さによって裁定取引の機会が増加。貴金属が関税の対象外になったことで前四半期から減少も、高水準で推移

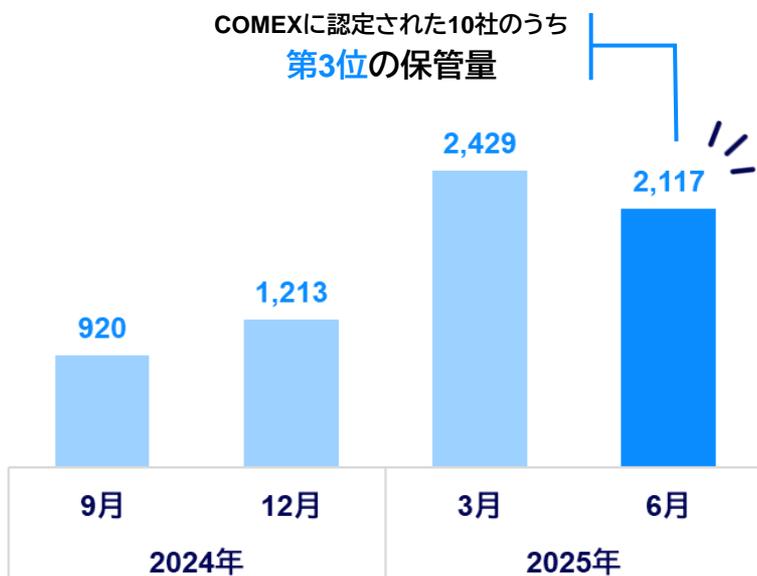


※2024年4月を100とした際の売上推移

- 貴金属が関税の対象外になったことで米国へ流入したAuが、米国外へ戻る傾向が見られ、Au保管量は減少
- 当社の精錬所から倉庫への搬入を継続したことで、Ag保管量は順調に増加

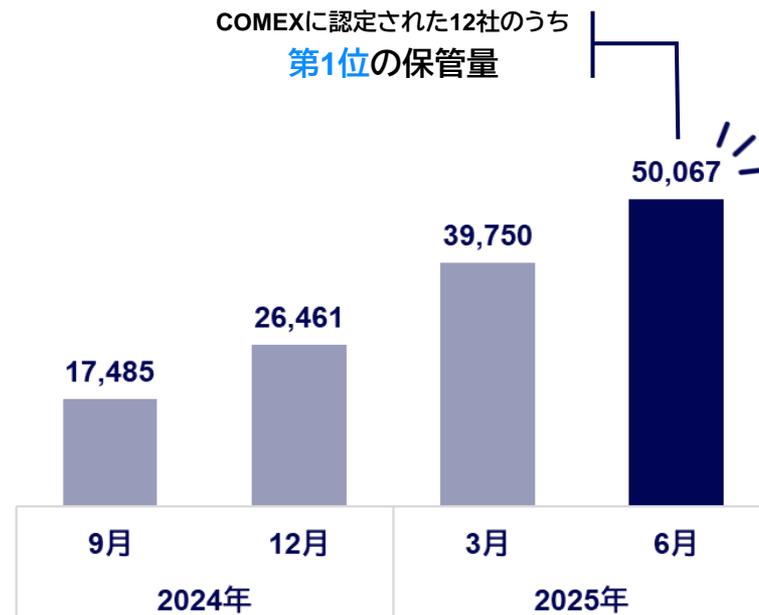
## Auの保管量

単位:千トロイオンス



## Agの保管量

単位:千トロイオンス



※ COMEXの「Daily Metal Stocks Report」より当社作成  
※ Registeredの保管量を参照

単位:億円

	2025年	2025年		主な増減内容	
	3月末	6月末	増減		
流動資産	4,196	4,344	+148	営業債権及びその他の債権 棚卸資産	+97 +39
非流動資産	704	716	+12		
資産合計	4,900	5,060	+160		
流動負債	3,113	3,417	+304	借入金の非流動負債からの振替	+305
非流動負債	524	236	△288	借入金の流動負債への振替	△305
資本	1,263	1,407	+144		
負債・資本合計	4,900	5,060	+160		

## Point

国内の貴金属リサイクル事業および北米精錬事業において、貴金属価格の上昇等により流動資産が増加

## AREホールディングス連結BS

単位:億円



自己資本比率  
(親会社所有者帰属持分比率)

**27.8%**

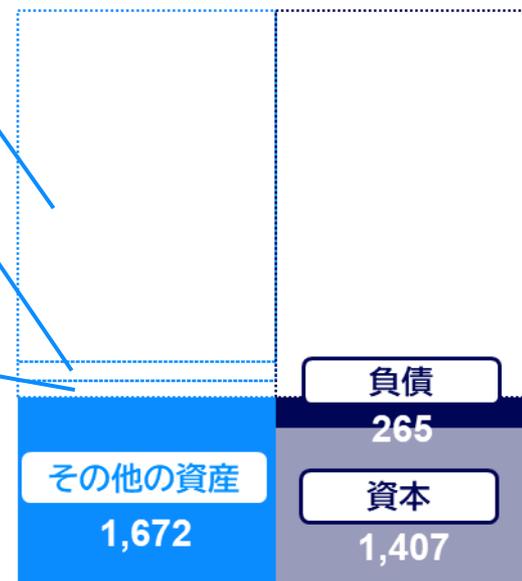
## 換金性の高い資産を除いたBS

単位:億円

北米営業債権等  
3,073億円

現金および同等物  
171億円

国内宝飾前渡金  
144億円



自己資本比率  
(親会社所有者帰属持分比率)

**84.2%**

### Point

当社の有利子負債の大部分は換金性の高い資産で裏付けされている

単位: 億円

	2026/3期 1Q	主な増減内容	
営業活動によるキャッシュフロー	5	税引前利益 棚卸資産の増減	+50 △40
投資活動によるキャッシュフロー	△6	有形固定資産の取得による支出 北米事業の前渡し取引等の増減	△31 +25
財務活動によるキャッシュフロー	8	借入金の増減 配当金の支払額	+39 △30
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11		
現預金の増減額	△4		
現金及び現金同等物の四半期末残高	172		

## Point

財務活動は資金の調達と配当金支払が中心

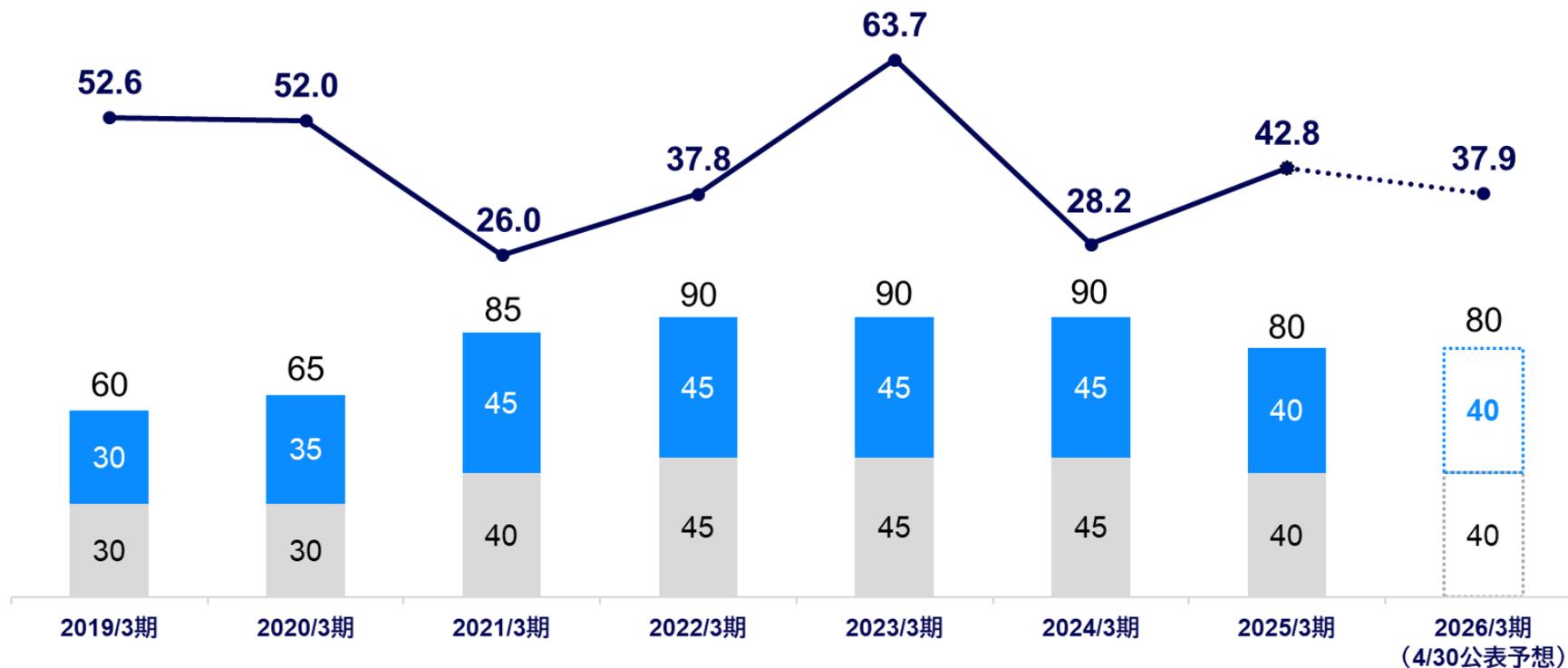
- 2026年3月期に計画している主な設備投資内容は、坂東工場第2期(約40億円)および北米の精錬設備更新(約30億円)
- 坂東工場第2期は段階的な稼働開始を予定しており、計画中の設備投資の大部分は今期中に完了する見込み

単位:億円

	2025/3期 実績	2026/3期 実績	2026/3期 計画	設備投資の主な内容
設備投資額	82	35	104	
└ 貴金属事業	81	35	102	
└└ 国内	33	24	59	坂東工場第2期関連・・・約40億円
└└ 海外	48	10	43	北米のAgの精錬設備更新・・・約30億円
└ その他	1	0	1	
減価償却費	27	7	30	

- 当社は配当性向40%を目安とした安定配当の継続を株主還元方針としている
- 2026年3月期は年間80円の配当を予定しており、配当性向は37.9%となる見込み

■ 中間配当(円) ■ 期末配当(円) ● 配当性向(%)





## 貴金属リサイクルの拡大

## 貴金属リサイクル量

2024年度

428トン

2030年度目標

300トン

CO<sub>2</sub>削減外部貢献量

2024年度

88.4万トン

2030年度目標

83.7万トン

人・社会・環境に  
やさしい貴金属供給

## 各種認証の取得



## UL2809認証

製品中のリサイクル  
含有率を評価、検証  
する規格。

## 認証取得品目

Auグラニューール / Auバー / Ptプレート

CO<sub>2</sub>排出量の削減CO<sub>2</sub>排出量 Scope1+2 ※

2024年度

(CO<sub>2</sub>排出量)

18.2千トン

(2023年度比)

△11%

2030年度目標

(CO<sub>2</sub>排出量)

11.9千トン

(2023年度比)

△42%



## ワークライフバランスとダイバーシティの基盤充実

## 年次有給休暇取得率

2024年度

62.6%

2030年度目標

70.0%

## 女性管理職比率

2024年度

4.7%

2030年度目標

7.0%

## 障がい者雇用比率

2024年度

3.3%

2030年度目標

2.5%

## インターバル勤務11時間達成率

2024年度

99.9%

2030年度目標

100%

## 男性育休・育児目的特休取得率

2024年度

100%

2030年度目標

100%



## SDGs活動の奨励・支援

## アサヒクリーンプロジェクト

地域の清掃活動

54回実施(延べ443名参加)



- 北米精錬事業では従来、鉱山由来の原料を中心に取扱いしてきたが、近年は宝飾品スクラップなどのリサイクル原料の取扱い量を戦略的に拡大している
- リサイクル原料の取扱いを増やすことで、限りある資源を有効活用して資源循環への貢献を一層強化していく

### 貴金属リサイクル量が増加



2024年3月期

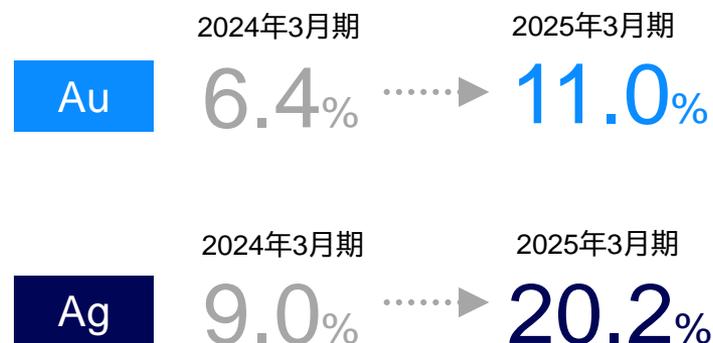
231トン

2025年3月期

428トン

2025/3期の貴金属リサイクル量は、前期比+197トンと大幅に増加しており、その主要因は北米精錬事業によるリサイクル量の拡大。

### 原料の総量に占めるリサイクル比率が上昇



北米精錬事業では、前期と比較してAu・Agともにリサイクル比率が高まっており、今後さらなる上昇を目指す。

鉱山由来原料を使用することから環境負荷が大きいというイメージを持たれていた北米精錬事業において、今後はリサイクル原料の取扱いを増やすことで、環境貢献度の向上を図る

### 貴金属リサイクルによるCO<sub>2</sub>排出削減量

2025/3期の貴金属リサイクルによるCO<sub>2</sub>排出削減量は、貴金属リサイクル量の増加に伴い、前期比+28.4万トンとなった。



### Point

リサイクル原料から作られる当社の一部Au製品は、採掘由来原料に比べて製造過程のCO<sub>2</sub>発生量を約98%削減可能。



### 1 当社グループのCO<sub>2</sub>排出量と比較すると...

2025/3期の間接的なCO<sub>2</sub>排出削減効果は88.4万トンとなり、当社グループの排出量の約49倍となる。



### 2 乗用車の年間CO<sub>2</sub>排出量に換算すると...

CO<sub>2</sub>排出量88.4万トンは、乗用車65万台が1年間に排出する量と同規模。



約65万台に相当

シンガポールの乗用車保有台数 (約60万台) に匹敵

- 当社が策定した温室効果ガス(GHG)排出量削減目標について、パリ協定と整合した「1.5°C目標」の水準として認定を取得
- SBTiより認定された目標の達成に向け、再生可能エネルギーの活用拡大や省エネルギーの推進に取り組むとともに、サプライチェーン全体での脱炭素化を進める



SCIENCE  
BASED  
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

### SBTiより認定された温室効果ガスの排出削減目標

Scope1+2

2030年度までに**42%**削減(2023年度比)

Scope3

2030年度までに**25%**削減(2023年度比)

### 目標達成に向けた主な実行策

#### 1 再生可能エネルギーの利用促進



- 各拠点においてZEBおよびZEVを推進
- 北米の拠点において水力発電由来電力の活用推進

#### 2 環境負荷の低いエネルギーへの切り替え促進



- 排出係数の低い電力への切り替え促進
- 坂東工場第2期における水素燃料の使用

## 1 ダイバーシティの推進



## Asahi Cheer-Up Meetingを開催

女性社員の「学び・成長・人脈形成」を目的としたイベントであり、2025年に開催した第3回は国内の全女性社員を対象に開催し、「私たちのワーク・イン・ライフ」をテーマに自身の強みを発見するグループワークを実施。

## 参加者から寄せられた感想

- ✓ 自分では認識していなかった強みや価値観に気づくことができ自信に繋がった
- ✓ 個性や強みを活かしあうことで組織が強くなっていく理由が理解できた
- ✓ 将来へのモチベーションが上がった

## 2 ワークライフバランスの実現



## 新たな介護サービスの導入

介護の一時相談から課題解決まで一貫通貫でサポートするサービス「わかるかいごBiz」を導入。既存の社内制度と併用することで、仕事と介護を両立しやすい職場の風土・環境づくりを推進。

介護コンシェルジュデスク

介護相談・保険申請サポート窓口



わかるかいごBiz

介護リスク診断等情報Webサイト

## 3 人材育成の強化



## 定期的な管理職研修の実施

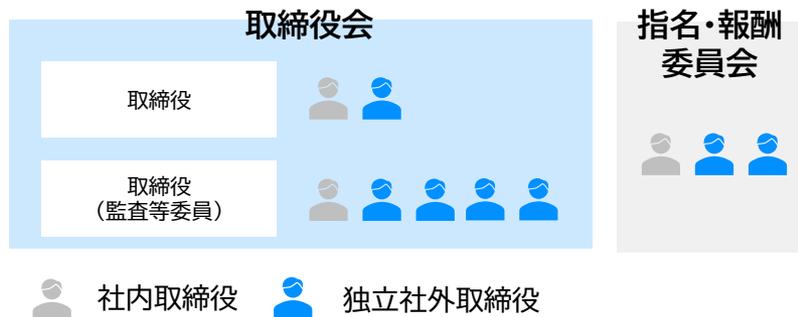
エンゲージメントサーベイで明らかになった課題の解決に向けて、各拠点の所属長を対象とした研修を実施。

心理的安全性の高い職場環境の構築と、アサーティブなコミュニケーションの促進を目指す。



- 独立社外取締役が過半数の体制を継続し、社外取締役比率を引き上げて独立性の高いガバナンス体制をさらに強化
- 監査等委員会ならびに指名・報酬委員会の委員長はいずれも独立社外取締役から選任

## 1 取締役会の新体制(2025年6月17日株主総会以降)



社外取締役比率 **71.4%**  
女性取締役数 **2名**

## 2 取締役のスキルマトリックス

	氏名	経営管理	業界知識	国際経験	営業販売	技術・イノベーション	行政経験	法務	財務会計	サステナビリティ
	東浦 知哉	●	●	●	●		●		●	●
	山本 明紀	●		●				●	●	
	原 良憲	●		●		●			●	
	鍵本 充敏	●	●		●			●		
	鶴 由貴			●			●	●		●
	中村 亨	●			●				●	●
	片田 薫	●			●			●		●



## 目次

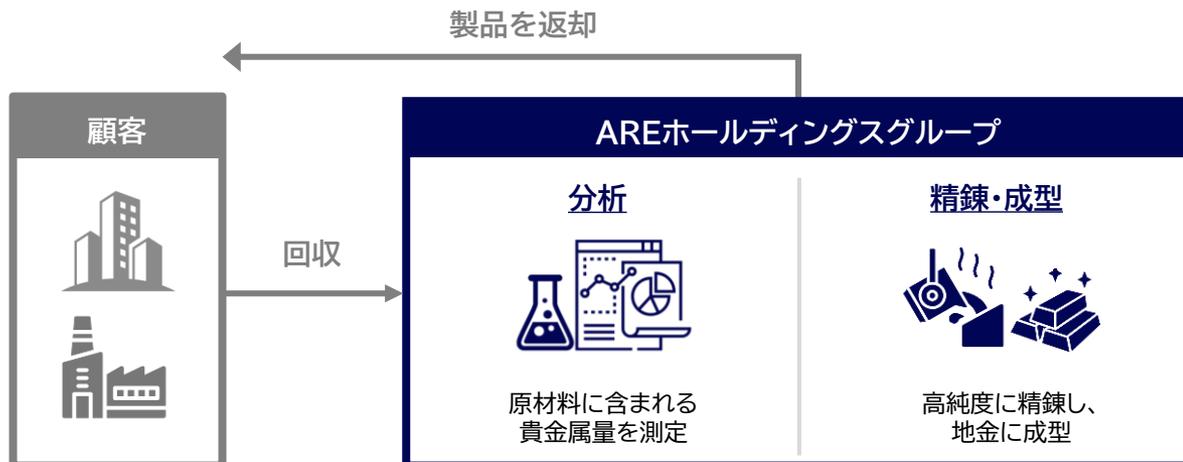
1. 2026年3月期 第1四半期決算
2. 参考資料



	元素別構成比			
	Au	Pd	Pt	Rh
デンタル	 30~50%	 50~70%	 10%未満	—
宝飾	 70%以上	 10%未満	 10~30%	—
電子	 70%以上	 10%未満	 10%未満	—
触媒	—	 50~70%	 30~50%	 10%未満

※ 表中のアイコンは各分野の回収量全体(Ag, Cuを除く)に占める各元素の割合を示す。

## 返却型取引



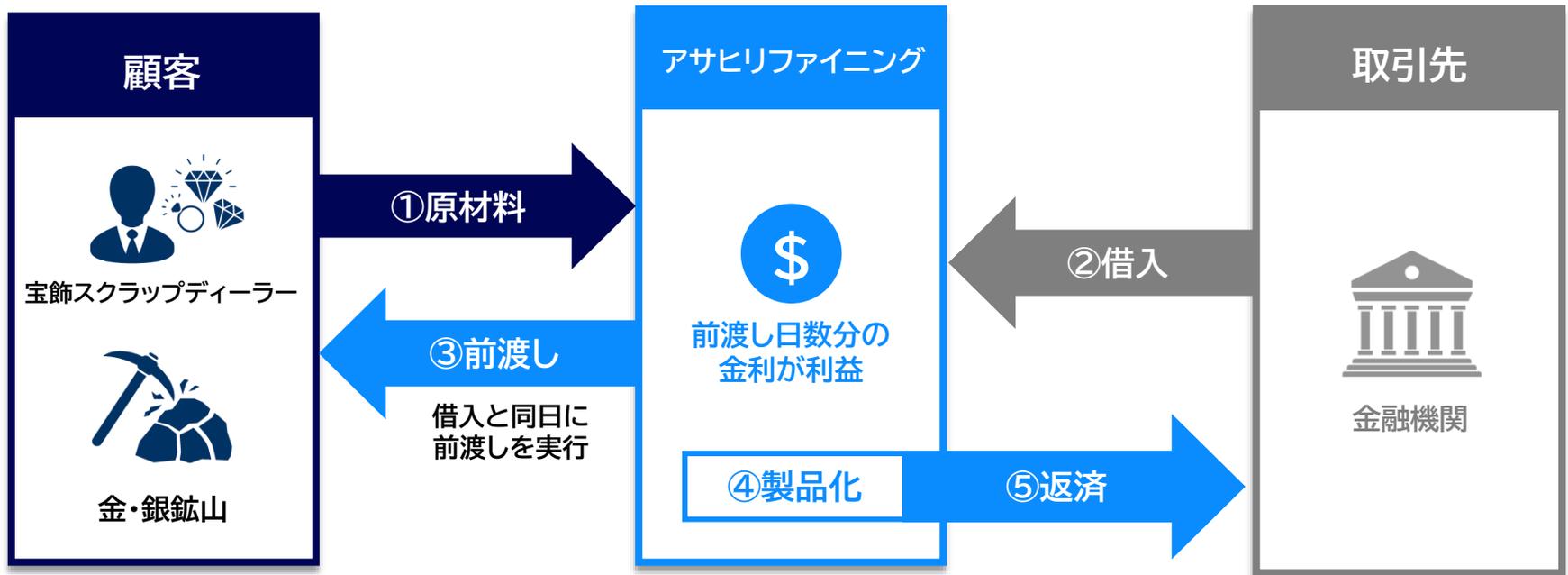
貴金属の買取が無い場合、**精錬手数料のみが売上収益**となる。

## 買取型取引



回収物の購入額が売上原価となり、精錬後の**地金の販売額が売上収益**となる。

- 原材料入荷から製品返却までの納期を短縮して製品を返却する
- 契約納期前に返却することで「前渡し日数分の金利」を得る
- 原材料を受領してから前渡しするため**貸倒リスクは無い**
- 資産と負債が両建てとなり、バランスシートが膨らむ要因となる



収益性

高

## 収益性の向上

サービスのラインナップ拡充とマニフェスト機能の強化により顧客満足度の向上とターゲット層の拡大を目指す

## 事業規模の拡大・収益性の向上

安定した収益源である精錬事業を土台に、トレーディング事業と倉庫事業を成長させる

## 事業規模の拡大・収益性の向上

- 新たに稼働する坂東工場第2期を最大限に活用し、回収量の拡大と収益性の向上を図る
- 営業戦略の見直しやデジタルツール等の活用により、各分野におけるシェア拡大を目指す

● : 現在のポジション

北米精錬事業

韓国・マレーシア

## 事業規模の拡大

タイヤインドにおける営業活動の強化と現地工場の稼働により、事業規模の拡大を図る

デンタル・電子・触媒

宝飾

貴金属リサイクル事業(国内)

環境保全事業(DXE)

ASEAN・インド

事業規模

大

- 当社の主力製品である99.99%金グラニュールに対し、原料回収から製品製造までのCO<sub>2</sub>排出量の算定並びにISO14040:2006、ISO14044:2006に基づいた第三者検証を実施
- リサイクル原料から作られる当社のグラニュール製品は、採掘由来の原料を使用した地金に比べて、製造過程で排出されるCO<sub>2</sub>発生量を約98%削減できる

### Auのグラニュール製品のカーボンフットプリント(CFP)を取得

